

# ◎ 地方通信

## 東海方面

### ◎ 犬山橋の竣功式

愛知縣と岐阜縣との境木曾川に架せられた犬山橋開通式に參列する爲名古屋驛に着いたのは十五日の早朝であつた。やがて車上の人となり露のかゝつた市内を通りやうやく郊外に出る。幅員は狭いが坦々たる道路を朝の空氣を一歩にはらんで犬山さして走る、左に徳川家康がその昔天下を握る動機となつた小牧山の大戰場を見ては、あゝこの山がね……と長い町並を幾つか通り越したころ犬山もやうやく近くなつたとみえ、着飾つた人々が先を急ぐ、老も若きも男も女も嬉々たるものがある、狭い途上には式に列する山車に道を拒まれたが、餘りにくゞもなかつた。人通りが

益々繁きを加へたところ、めどす犬山町に入つたのである。

車を捨て——犬山城は左に繪の如く聳え、橋は目の前に萬國旗に飾られてゐる、朝風になぶられてゐるのも清々しい氣持である。一と先瑞泉寺といふ格式の高いお寺に休憩してゐると、時間勵行と言ふ知らせに式に參列した。もうその頃は式場既に人でうづまつてゐる、相當混雜することゝ思つたが、よもやこんな人出とは思はなかつた、十萬からの人だといふ。式場を圍んで山の上橋の下人ばかりである。渡橋式に先つて平和の鳩を飛ばしたのも氣が利いてゐる。吉例の三夫婦が三組も出た、しかも古代、中代、近代と服裝別にした三夫婦もあり、この席に列するため遅遅として進まなかつた。縁談も急に纏つてこの盛典に列することになつたといふおめでたいエピソードもあつた。

神事もすみ多數の祝辭が朗讀せられる、中にも某代議士は喜びのあまり本架橋並維持及將來この附近の發展策に對しては政黨政派に根をもたず……と、なか／＼おもしろい。

橋は日本ラインを背景とし前に犬山の名城を擁し山高く

水清き中にしつくりとはまつて難はなく、トラスの白色もくつきりとめだつあたり設計者の苦心も左こそと思はれた。この橋は府縣道犬山岐阜線中名にしあふ木曾川に架せられ愛知縣と岐阜縣とを連絡するもので重き使命をもつてゐる。直接には愛知縣側の舊城下犬山町と岐阜縣側の鵜沼とを結びつけ、又各務ヶ原の飛行場も程近く交通は相當に頻繁であり、近時益々其の重要さを認められて來たのであるが、これまでは大川ではあるし木橋位では度々流失の虞でもあつたものが御多分にもれず矢張渡船であつた。渡船も新式でやつてゐたのであらうけれども渡船は渡船で洪水毎に交通も杜絶した事であつたらうし、その度毎に兩岸の人は達は滿々たる水面を眺めては人それ／＼の感を胸に抱いた事であつたらう。上流の日本ライン中に、おとみ岩、與會松岩といふ二つの岩がある。今のやうに橋は勿論の事渡しさへもなかつた時代だつたらう。兩岸の二人が思ひあまつた上その岩までたどりついて思ひの丈を語りあつたと言ふ傳もある程に……交通に支障を來してゐた事は争はれない

事であつた。それがこんどこの立派な橋は出来るし電車さへも通ずるから御先祖がそんな苦痛を忍んで來たことをすら忘れてしまふ不孝者が出るかもしれないが、有難い事である。これでそんな悲しい物語りが出来ないかはり交通杜絶といふやうな憂目にも遭はない譯である。

さて此橋は大正十二年一月の着手で大正十四年十一月に竣功した。總工費六十六萬六千百餘圓を費し總長百二十三間餘總幅員九間餘といふ大橋で橋面は車道と歩道とに別け車道の如きはアスファルト舗装で大都會の眞中の橋を歩いてゐる氣持がしてならなかつた。結構や工事の概要は犬山橋概要を参照して頂きたい。當地方の關係の人々が如何に期待し喜び合つたかは祝詞を通して察して頂きたい。(犬山にて大江特派員記)

犬山橋概要

- 一 位置 左岸愛知縣丹羽郡犬山町 府縣道犬山岐阜線  
右岸岐阜縣稻葉郡鵜沼村 岐阜犬山線
- 一 橋長 トラス徑間二百四十呎 三連總長七百三拾八尺五寸

(二二三、〇八一)

一 幅員 車道有効幅員三十七尺(六、一七)名古屋鐵道復線軌條

併用

歩道有効幅員 各五尺トラス心々四十尺總幅五十四尺

五寸(九、一)

一 構造 カラブド ヴォーレン トラス 有効高十六尺五寸

橋床—車道、鐵筋混凝土厚五寸四分ノ上ニアスフアル

ト厚一寸七分ノ鋪裝チナス、歩道、ハイリア上ニ混凝土

土厚二寸九分チ施工ス

橋臺—表面石造内部混凝土高三十八尺六寸

橋脚—表面石造内部鐵筋混凝土高三十四尺直徑十二尺

五寸

高欄—鑄鐵

一 前後取付道路 愛知縣側 延長五十間六分 平均幅 八間  
岐阜縣側 延長五十二間六分 平均幅 八間

一 主要材料 橋體鐵材—一四九五米噸(三六一、六四一貫)壹坪

當り一噸三四(三二四貫)

橋床鐵筋—六二、六(一五、一四三貫)壹坪當り〇噸〇八

(一九貫)

高欄鑄鐵—六〇、〇(一四、五一四貫)

切石計—一七、二一八切

混凝土計—四七、四七四立方

一 設計動荷重 十二噸壓機

八噸自動車

三十噸電車

壹平方呎ニツキ百封度ノ群集荷重

一 總工費 六拾六萬六千壹百七拾八圓

橋梁工事費

五拾八萬八千八百四拾五圓

内

上部四拾六萬七千四百六拾壹萬圓

(壹坪當五百貳拾七圓)

内

下部拾貳萬壹千參百八拾貳圓

(壹坪當四百拾八圓)

前後取付道路工事費

四萬五千參百八拾貳圓

雜費

參萬壹千九百五拾壹圓

一 工期 大正十二年一月十八日着手 大正十四年十一月十二日竣功

式 驗

府縣道犬山岐阜線岐阜犬山線犬山橋架設ノ工成リ本日ヲトシ茲

ニ之カ竣功ノ式典ヲ舉行スルニ至リタルハ寔ニ欣幸トスル所ナリ

抑々本橋ハ愛知岐阜ノ縣界ヲ流ルル木曾川ニ架シ兩縣交通ノ樞

樞ニ當レリ然ルニ本箇所ハ從來纔ニ渡船ヲ以テ其ノ連絡ヲ維持シ

運輸ニ資スルニ過キヌ出水疎ル毎ニ彼我ノ不通ハ遮斷セラレ遺憾トスル所頗ル多カリキ殊ニ近時各地産業ノ進展ニ伴ヒ物資ノ集散愈々多キチ加フルト共ニ各務ケ原々頭近代の軍事施設ノ完備ト相俟テ之カ行動上益々橋梁架設ヲ要スルコト切ナルモノアリ即チ茲ニ架設ノ議ヲ決シ國帑ノ補助ヲ仰キ併用鐵道敷設會社ノ寄附ヲ容レ年ヲ闊スルニ二年有半財ヲ投スル六十有餘萬圓今ヤ全ク其ノ成レルヲ見ル洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

惟フニ本橋ノ竣成ハ軍事上ハ勿論一般交通上利便ヲ齎スコト少カラス延イテ國運ノ發展ニ寄與スル所大ナヘルシ希クハ日本ライシノ景勝ト相俟テ永ク其ノ利ニ賴ラムコトヲ一言以テ式辭トス

大正十四年十一月十五日

愛知縣知事 山 脇 春 樹

祝 辭

犬山橋梁架設其ノ功ヲ竣ヘ本日茲ニ落成ノ式典ヲ擧グルニ至レルハ邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ

由來犬山岐阜間府縣道ハ交通上重要ノ地位ヲ占メ軍事上亦重キヲ爲スニ拘ラス之ヲ横斷セル木曾川ニハ從來橋梁ノ設備ヲ缺キ纔ニ渡船ヲ以テ交通ノ連絡ヲ保ツニ過キサルカ如キ時運ノ進步ニ伴

ハサルノ憾アルヤ久シ愛知岐阜兩縣當局深ク之ニ鑑ミル所アリ相謀リテ鐵道併用架橋ノ計ヲ定メ工ヲ起シテヨリ三年實ヲ費ス六十餘萬圓今觀チ新橋ノ成ルヲ見ル念フニ其ノ構造ノ堅牢ニシテ規模ノ宏壯ナル克ク現代交通ノ實情ニ適シ地方産業ノ發達ニ裨益スル所亦極メテ大ナルモノアルヲ疑ハス冀クハ今後力ヲ之カ維持管理ニ致シ以テ長ニ其ノ効果ヲ致サレンコトヲ一言所懷ヲ寄テ祝辭トス

大正十四年十一月十五日

內務大臣 若 槻 禮 次 郎

祝 辭

交通機關ノ整備ハ産業ノ發達ヲ促進シ國民生活ヲ安定セシムル所以ニシテ現下緊要ノ施設ニ屬ス殊ニ道路橋梁ノ新設改良ハ自動車交通ノ著シク普及發達セル今日最モ機宜ニ適セルモノト謂フテ憚ラス愛知岐阜兩縣當局深ク道路改良ノ急ヲ認メ相謀リテ木曾川架橋ヲ企圖シ今觀チ規模構造克ク現代ニ適應セル犬山橋ノ竣功ヲ見ル念フニ從來ノ渡船ニ依ル不便除カレ茲ニ始メテ幹線道路タル機能ヲ全フスルヲ得ヘク之カ慶澤ニ浴スルモノ獨リ關係地方ノミニ止マラサルヘシ本會夙ニ道路ノ改良ヲ唱道シテ之カ促進ヲ冀フ

久シ今著々トシテ之ヲ實現ヲ見ルニ至リ欣快ノ情自ラ禁セサルモ  
ノアリ竣功式ニ當リ乃チ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年十一月十五日

道路改良會會長 水野 鍊 太郎

祝 辭

犬山橋新築ノ工ヲ竣ヘ茲ニ本日ヲトシテ開通ノ式ヲ舉ク

抑モ本橋ハ木曾川ノ中程ニ位シ愛知岐阜ノ要衝ニ當ルチ以テ將來

ハ往來頗ル頻繁ニ運輸又殷盛ナルヘキヤ必セリ

自今其交通ニ利便ヲ與ヘテ兩縣產業ノ發展ニ裨益スル所甚大ナル

ノミナラス技術ノ精妙ト結構ノ壯麗トハ又以テ日本ライソノ風景

ニ一段ノ美觀ヲ添ヘ大正聖代ノ一大記念ト謂フヘシ

開橋ノ盛典ニ際シ一言以テ祝辭トナス

大正十四年十一月十五日

衆議院議員 加藤 調 一

祝 辭

本日犬山橋渡橋式ヲ舉行セラルトニ當リ之ノ盛典ニ列スルヲ得タ

ルハ余ノ最モ光榮トスル所ナリ

抑々本橋ハ愛知岐阜ノ縣界ヲ奔流スル木曾川ニ跨リテ交通運輸上

地方 通信

最モ緊要ナルノミナラス又軍事上必要缺クヘカラサル重要ナル橋  
梁ニシテ兩縣人カ多年架橋ヲ希望シテ止マサリシ所今ヤ之ノ一大  
飛橋ヲ觀ルニ及ヒテ衷心觀喜措ク能ハサルモノアリ茲ニ關係官民  
諸賢ノ勞ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ披瀝シ謹ミテ祝意ヲ表ス

大正十四年十一月十五日

岐阜縣會議長 平井 信 四郎

祝 辭

犬山橋架設ノ工ヲ竣ヘ茲ニ本日ヲトシテ渡橋式ヲ舉ケラル洵ニ衷

心歡喜ノ情ニ堪ヘス慶賀止ム能ハサルモノ多クアリ

余輩ハ常ニ思ヘラク我カ經濟的關係ニヨリテ區分セハ正ニ三トナ

スヘク而シテ其ノ中部ニ位シ一ツチ占ムルモノハ名古屋市ヲ樞軸

トセル濃尾平野ナリト之レ其地味ノ肥沃ニシテ天産ノ豐富ナルノ

故ノミニアラス武藏及攝河ノ平野ニ比シ工業地トシテ甚々優越セ

ル幾多ノ天恵ヲ享有セルヲ以テナリ然レトモ産業ノ發達近時漸ク

其緒ニ就キタルニ過キスシテ未タ以テ必要ナル機關充足セリトナ

スナ得ズ特ニ尾北ヨリ美濃ニ至ル交通機關ハ甚々缺如シ地壤相接

スト雖トモ日本三大河ノ一タル木曾川ニ遮斷セラレ東海道線ニ依

リテ岐阜市ニ出ツルモノ、外橋梁ノ便少ナク纒カニ渡船ヲ以テ

日常ノ用ニ供スルニ過キス而モ河幅廣大ニシテ水勢急ニ大雨一度至ランカ濁流滔々トシテ所謂川止ヲ見交通殆ント杜絶スルノ状態ニシテ疎遠恰モ千里ヲ距ツル感アリ文化ノ開發ヲ圖リ産業ノ繁盛ヲ期スル上ニ於テ甚タ遺憾ニ堪ヘサリシカ各種ノ困難ハ直チニ架橋ノ實現ヲ許サス空シクシテ流水ニ對シテ不便ヲ嘆スルノミナリキ今茲巨費ヲ投シ縣道ノ開鑿ト共ニ結構甚々堅牢ニシテ而モ壯麗雄大ナル一大長橋ノ架設セラレ加フルニ我方名古屋鐵道ノ敷設ヲ許サレタルハ欣幸何物力之ニ加ヘン殊ニ其位置名古屋市ヨリ直北シテ中仙道鶴沼ニ出テ美濃ノ中部ヲ縱貫シ直チニ飛驒ニ入ルノ捷徑ニ當リ當ニ濃尾平野ニ工業ノ勃興ヲ促スニ便ナルノミナラス莫日本トノ交通ニ寄與スル所亦甚大ナルヘク況ンヤ木曾川ヲ横斷セル橋梁中鐵道ノ敷設アリテ而モ車馬ヲ通シ自動車ヲ走ラステ得ルハ本橋一アルノミニシテ交通運輸ニ至利至便ナル單ニ鐵道用ニ架セラレタルモノ、比ニ非サルヲヤ寔ニ國富ノ増進ニ裨益渺ナカラサルヲ疑テ容レズ之レ身ヲ産業ニ委スルト共ニ密接ノ關係ヲ有スル余輩ノ欣抃雀躍第一ニ慶賀措カサル所ナリ

次ニ之カ軍事上ヨリ考察スルニ名古屋城下ト各務原飛行場トノ連絡本橋ニ依リテ初メテ完備シ其効果ノ如何ニ偉大ナルカハ門外漢

ト雖トモ之レヲ想像スルニ難カラサル其二ナリ

更ニ轉シテ風光ノ上ヨリ見ルニ遙カニ之ヲ望メハ積翠倚伏重疊スル所鐵欄ノ高ク空際ニ横ハルハ恰モ一抹ノ殘霞驪巖トシテ棚引クカ如ク橋上ニ立チ顧ミレハ斷崖水ニ逼リ奇岩怪石或ハ獅躍シ或ハ虎蹲シ急湍白龍ヲ走ラス天下ノ奇景ト長江悠悠天ヲ浮ヘテ流レタ夕陽西ニ傾キテ殘照白帝城ノ粉壁ヲ彩ル時紫匂フ夕暮富士ノ彼方ニ老伊吹ノ連嶂模糊トシテ際涯ニ横ハリ舷歌杳々白帆歸リ來ルノ幽勝ト左右ニ之ヲ合セ得タルハ日本ライオン絶勝ニ更ニ一勝景ヲ加ヘタリト謂フヘク動モスレハ名勝ノ破壞セラレントスルノ時洵ニ慶賀スヘキナリ猶各種ノ方面ヨリ仔細ニ之レヲ觀察セハ更ニ幾多ノ美點特長アラン往昔武藏ヨリ下總ニ架セラレタル兩國橋カ江戸名所ノ一ニ謳ハレ今ヤ帝都ノ中央地點トシテ繁榮ヲ極ムルヲ見テハ尾張美濃ノ二洲ヲ聯結シタル犬山橋カ濃尾平野ノ中心トシテ將來何物ヲ齎スカテ相像シ茲ニ滿腔ノ慶情ヲ披瀝シ敢ヘテ鄙辭ヲ述ヘテ祝詞トナス

大正十四年十一月十五日

祝 辭

名古屋鐵道株式會社社長 上遠野 富之助

本日茲ニ犬山橋架設ノ工ヲ竣ヘ開橋ノ式典ノ舉行セラル、ニ當リ  
席末ニ列スルヲ得タルハ余ノ光榮トスル所ナリ

本橋ハ鐵欄迢遙トシテ碧空ニ横ハリ石柱深ク河底ニ入り木曾川ノ  
清流ニ和シ結構ノ堅牢ナルト觀望ノ壯麗ナル眞ニ全國ニ冠タリト  
言フモ敢テ過言ニアラサルヘシ

思フニ尾濃ノ平野ハ地味肥沃ニシテ人口稠密シ諸種ノ生産隆昌チ  
極メツ、アルモ木曾ノ大川中央ヲ貫流シ愛岐ノ交通ニ一大障礙チ

來シ兩者ノ發達チ遷延セシメタルコト蓋シ少シトセス然ルニ明治  
四十一年木曾川橋ノ工ナリ兩者ノ交通ニ至便チ與ヘタルハ吾人ノ

記憶ニ新ナルモノアルモ時勢ノ進運ハ一木曾川橋チ以テ満足スヘ  
キニアラス東部美濃及飛驒開發ノ急務チ高唱セラレ一面又本橋ハ

軍事上極メテ樞要ナルモノアリト聞ク此時ニ當リ地チ犬山町内田  
ノ渡ニ選ヒ巨萬ノ費チ投シ設計監督共ニ其ノヨロシキチ得工事者

又熱心業ニ服シ本日茲ニ犬山橋ノ竣工チ見タルハ兩縣民ノ均シク  
欣喜措ク能ハサル所ナリ冀クハ本橋チ通シ益々兩縣民融和協同ノ

實チ固クシ或ハ産業ニ或ハ教育ニ隣保相助ノ實チ擧ケ相携ヘ以テ  
大正ノ文化ニ貢獻アラムコトヲ祈ル一言蕪辭チ述ヘテ祝辭トス

大正十四年十一月十五日

地方通信

祝 辭

愛知縣丹羽郡長 神谷俊次郎

木曾川犬山橋ノ工事全ク成リ茲ニ天高ク氣清キ晩秋ノ好期チトシ  
其竣功ノ式典ヲ舉行セラル、ニ當リ其席末チ汚スノ光榮チ荷ヘリ  
惟フニ文化ノ普及進展チ圖リ殖産ノ繁盛チ期スルハ交通ノ捷快チ  
得ルニ如クハナシ由來岐阜愛知兩縣下犬山鶴沼間ハ距離極メテ近  
ク指願ノ間ニ位シ兩縣聯絡ノ要衝ニ當レリト雖モ木曾ノ巨浸チ隔  
テ、交通ノ利便チ缺キ産業ノ進展チ阻害シ沿岸地方ノ苦痛損失舉  
テ數フヘカラス是レ工費ノ巨大チ吝マス本橋チ架設セラレシ所以  
ナリ今ヤ白帝城下木曾ノ激流ニ架セル一大最新式橋梁ハ沿岸ノ風  
景ニ一段ノ光彩チ添ヘ風致チ増シ地方ニ於ケル唯一ノ連絡機關ト  
シテ東西兩斷ノ憂再ヒ起ラス地方民ノ渴望チ滿シ交通運輸ニ至大  
ノ利便チ與ヘ兩縣下富源ノ開拓ハ著々實行セラレ産業ノ發達ニ資  
スルハ勿論壹事上ヨリ見ルモ亦一大効果アルヤ論チ俟タス幸ヒ此  
ノ盛典ニ列シ衷心欣喜ノ情ニ堪ヘス蕪辭チ述ヘテ祝辭トス

大正十四年十一月十五日

岐阜縣稻葉郡長 正六位勳五等 大野 勇

祝 辭

鐵欄高ク空際ニ横リ石柱深ク河底ニ入ル結構ノ堅牢觀望ノ秀麗本邦稀ニ觀ル所ナリ茲ニ竣工ノ式典ヲ舉行セラル、ニ當リ喜ヒ極リテ又言フ所知ラス蓋シ本川ハ愛岐兩縣ヲ境スル大川ナルニ拘ラス管テ橋梁ノ架設セラレタルゴトナク僅カニ小舟ヲ以テ之カ來往ノ用ニ供シ人馬交通ノ不便謂フヘカラサルモノアリキ偶々大雨ニ際會センカ河水横溢南北ノ歸輸其途ヲ絶チ疾風激浪ヲ捲キ人家ヲ盪シ樹木ヲ倒シ人畜呼應シテ相扶クル能ハス慘烈ノ狀峻酷ヲ極メタリ本縣茲ニ見ル處アリ規制設計資ノ大部ヲ國帑ニ仰キテ工ヲ起サレ日々經營三十有四閱月新橋茲ニ成ル工費約六十有餘萬圓築設完美結構偉觀固ニシテ撰ナラス壯ニシテ奢ナラス文質相適フ美ハ即チ平日ノ觀望ハ即チ變時ノ備自今災害起ルモ南北兩斷ノ憂ナク交通愈々利便人心益協和一橋成リテ萬衆ノ作興新ナラントス地方ノ民將來一層奮勵努力之ニ頼リテ福利ヲ増進シ繁榮ヲ舒長シ以テ此惠澤ニ酬ユル處ナカルヘカラス

謹ムテ本橋架設關係當路ノ勞ヲ謝シ併セテ助力ヲ辱フセル各位ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ提ケ感謝ノ意ヲ表ス

大正十四年十一月十五日

犬山橋竣工式犬山町協賛會長 加藤 富 藏

祝 辭

文化ノ將來ハ交通ノ便否ト緊密ナル關係ヲ有ス愛知縣當局茲ニ鐵ミル處アリテ藝ニ犬山區架橋ノ工ヲ起シ爾來年ヲ經ルコト三歲工全ク竣リ本日ヲ以テ落成渡橋ノ盛典ヲ舉ケラル由來本線ハ濃尾ノ要道ナルモ蘇川ニ隔テラレ不便尠カラサリシカ今ヤ牢固不朽ノ架橋成リ爲メニ關係町村ノ利便ト福祉トハ蓋甚大ナルモノアラン不肖本日ノ盛典ニ列シ欣舞措ク能ハス聊カ無辭ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年十一月十五日

鷗沼村長 小林 竹 衛

◎一宮貫通道路

開設以來批難攻撃の的となつたカーブ付の道路たる一宮市南公設市場北新線の西端より本町通り國道筋に貫ぬく豫定線は既に本年度内に於て開鑿すべき事となつて、縣費補助の申請中であるが、此の新線は幅員三間、延長五十間で經費三萬三千圓を計上されて居る、又地主は何等支障なく縣費補助の指令次第工事に着手することができると。



## ◎豊橋松山間道路擴張の陳情

愛知縣豊橋市新停車場通りを基點として新錢、新川、中柴を経て松山に至る現在の道路の擴張は豫ねて計畫されてゐるが、いよゝ關係者の用地寄附調印を取纏め各町から選任せられた委員は過般豊橋市役所を訪ひ同道路を、現在幅員二間を兩側二間づつ後退し幅員六間に擴張されたき旨請願書を提出し、十五年度市豫算に計上方を懇請したが尙その先線たる松山の部に於てもこれに追隨して擴張せんと希望してゐるので追つて出願するものと觀測され、之がまともれば新停車より柳生橋に至る大手通りに併行する新幹線路を形成し市の東西交通上多大の便宜となるであらう。

## 關 西 方 面

### ◎古鐵橋を譲り受け淀川に架橋

枚方町中心の架橋期成會

大阪府北河内、三島兩郡間の淀川架橋問題は夫る大正九年春以來の問題で、當時北河原郡會は府當局に意見書を提出し、其の後十三年九月二十五ヶ町村が連署で架橋實現を陳情して今日に至つてゐるが、最近京阪電鐵が宇治、木津二川の現在鐵橋の架け替へをするを機とし同問題が再熱し去る二十四日枚方町では町當局、現前町會議員、常設委員其の他有志等二十三名が會合協議の結果淀川架橋期成會を組織し、事務所を設け二郡關係町村の賛成を求め連署で府當局に陳情すべく已に請願書を作成すると同時に早川枚方町長は二十六日から關係町村の行脚を始めた。

右京阪電鐵の現在二鐵橋といふのは明治四十一年竣工、工費八十萬圓、長さ千九百四十尺、幅二十六尺、橋梁材重量約千屯であるが現在運轉中の重量三十屯の電車を近く六十屯にする計畫なので、右二川の鐵橋を來年十月限りで廢棄することゝなつて居るのである。

これと同時に鐵橋讓渡しについて京都府、三重縣からも會社に交渉するところあつたが、大阪府でもかねて淀川架

橋問題を考慮してゐた矢先きとて會社側と内交渉する等二府一縣の間に鐵橋の爭奪が行はれてゐるやうな有様である。會社側では「鐵橋運搬費（少くとも五萬圓）を負擔せず」との條件で大阪府に内諾を與へたので府土木課でも既に架橋場所について調査を終了したが、同問題は近く具體化するであらと言はれてゐる。

### ○道路保護申合と青年團の道路奉仕

國鐵關西支線草津線の大原市場驛を下車すると其處は甲賀郡の大原村である。此の村には八百五十餘の世帯數と六千二百餘の人口を包擁し田畑と山林を主とする農村である。此の村はづつと以前から村全體の人々がお互に道路を愛護するといふことに努むる慣習があるので亦其の成績も擧つて居るのである試に同村内の道路を見ると實に掃除は行き届き之が修繕を懇ろに施されて一種の氣持のいゝ感じがするのである。

同村内の道路の狀況は勿論田舎村のことであるから其の幅

員は餘り廣くはないが、其の延長は國府縣道が四里十一町町村道の路線數五〇此の認定延長十三里二十七町、尙認定せざる延長が外に七里三十三町を有して居る、此外に耕作道だの山林への通路等も可成有つて居るのである。

之等の道路に對して村の各字では左記の道路保護規約を作つて一年に三回（規約にては年二回とあるも）宛各大字の人々が各其所屬の道路の手入の爲め總出で之に當るのである。然し乍ら右の出役のみにては實際に於ては其の目的の完璧を期するといふことは至難である。然るに茲に同村の青年團に於ては毎月一日を團員の體育デー、十五日を修養デーと定め、此の體育デーには早朝打鐘を合圖に起床して各々所屬の道路の掃除や、手入をなすのである。之が了ると後は擊劍だの角力等の體育に努むるのである。この道路の手入は青年團體育デーの「道路奉仕」と唱へて居るが之は前に記述した各字の道路保護申合規約に依る作業を補ひ、且此の目的を達する上に於て餘程の貢獻をして居るものと謂はねばならぬ。青年團のこの道路奉仕は素々冬期除

雪作業の附隨として發達して來たので而して各受持區域の道路の修繕手入の成績は青年團の他の事業と共に探點の上其の成績を決定して表彰することになつて居る。

之等の事例は道路愛護の方面から謂つて誠に結構なること  
で之等の思想の發達に依つて道路の改修又は改良の効果を益々發揚し之か利用の増進を來す所以であるから今後機會毎に此の種の思想を廣く一般に普及宣傳することに努めた  
いと思ふのである。(滋賀縣報告主任)

#### 道路保護申合規約趣旨書

道路ノ整否ハ地方産業ノ發展ニ重大ノ關係ヲ及ボスハ論ヲ俟タズ  
從テ折角改修セル道路モ手入不充分ノ爲メ其ノ效果全カラサルモ  
ノアルトキハ延テ地方民ノ不利不幸ヲ招ク次第ニ付茲ニ道路保護  
ノ申合ヲナシ各自々發的ニ又相互的ニ平素手入ヲナシテ其ノ効果  
ヲ充分ナラシメ一ハ公共的觀念ヲ涵養シ一ハ地方經濟ノ一助トナ  
サムトス

#### 道路保護申合規約

第一條 本村内ニ於ケル縣及村道ノ別ナク年々春秋二回村民總

地方通信

出ヲナシ村長指示ノ工法ニ依リ左記區域内ノ手入ヲ爲ス事  
記

櫛野 同大字所屬(櫛野林道ヲ除ク)及元郡道前ヨリ  
佛性寺橋ニ至ル

神 同大字所屬(神林道喜左衛門林ノ小溝以東ヲ除  
ク)

大原上田 同大字所屬

大久保 同 (元郡道菖蒲谷ヲ除ク)

大原中 同

鳥居野 同

相模 同 (中島源次郎前西暗桑以西ヲ除ク)

大原市場 同 及相模所屬ヲ省キタル箇所

(元西學校前交叉點以西ヲ限ク)

高野 同 及大原市場所屬ヲ省キタル箇所

但其ノ大字所屬ヲ除外セルト雖土地關係者ハ之ニ從  
事スルモノトス其ノ他道路利用ノ關係上大字相互ニ  
於テ受持區域ヲ變更スルモ差支ナシ其ノ場合ハ都度  
村長ニ報告スルモノト

第二條 平常ノ手入ハ各大字ニ於テ適宜個人毎ニ受持區域ヲ定

得  
メ左ノ事業ヲ行フ從テ受持ニ於ケル生草ヲ採集スルコトヲ

一 常ニ排水ニ注意シ道路ヲ整頓スル事

二 降雪ノ際ハ其ノ都度雪除ケヲナス事

三 其ノ他保護上必要ノ事業

第三條 道路ノ兩側ニハ絶對何物モ置カサル事

第四條 手入ノ優秀ナルト認ムルトキハ村長ヨリ毎年其ノ大字

及個人ヲ表彰スルコトアルヘシ

第五條 本規約ハ大正九年九月ヨリ實施ス

右規約ヲ承認シ遵守スルコトヲ證スル爲メ茲ニ署名捺印ス

(各大字各戸主連名) 姓 名 ㊦

### 北陸方面

◎興味を唆る道路費の負擔問題——新瀉縣

新瀉縣會では三つの重大問題の一として、道路の繼續費問題がある。即ち目下繼續中の道路工事に對し財源捻出の一方法として、地方地元ニ對し工費の二割を負擔せしめ、新起工事に對しては、三割の費用を負擔せしめむとする發案がある。之に依るときは既に工事完了したる地元ニ對しては何等の負擔を爲さしめず、新に起工する工事の地元は之が負擔を要すること、なるの結果、負擔の公平を缺くこととなり、しかも其の内には山間の僻村で負擔力薄弱たるもの又は小村で完全に負擔が出来得るや否や等の事實問題があつて、之に對する縣當局と、縣會各派間に於ける論戰に付ては異常の興味を唆られてゐる。

### 中國方面

◎井出口橋落成

廣島縣佐伯郡八幡村にては縣の道路共進會に参加し、爾來部落に於ては數回に亘り之が補習を行ひまた村としては

毎月一日を道路補修日と定め、村民總出にて縣道及村道を一齊に徹底的補修を行ひつゝ、あるが、各部落に於ては土地の良否の關係上數度に亘り補修を行ひ、殊に同村利松部落は東に八重線、後に加計線に至る各縣道を控へ、中を流るる八幡川にかゝる井出口橋は去る九月一日の山陰地方の水害と共に遂に墜落し、爾來假橋にて通行し居れるも、同橋は人馬の通行頻繁なるがため本橋の架設は一日も急施を要すべき事として、部落有志十餘名は山縣郡加計方面に釣橋の見學を行ひ、最新式簡便な釣橋の改築を見て之に倣つて架橋することし去る九月十五日工事を開始し、約二ヶ月餘を勞費して遂に完成した。之に要した經費一千五百餘圓にして近村に見ぬ釣橋であるが去る三十一日天長節祝日をとし之が盛大なる開通式を行つた。

### ◎廣島吳間道路改築準備

廣島、吳間約六里の國道は全く人力車さへ通じ得ない場所がある。之が改修は多年の懸案であつたが、廣島縣では

將來兩都市間の交通上是非改修の必要を認め、十五年度豫算に於て調査費を要求し極めて短時日を以て之を調査し改修に着手すべく善處せんとして居る模様である。右道路は道路法の規定に依つて少くも四間の幅員を要し、更に將來を慮つて併用軌道ともすれば七間道路とする必要がある或は其の結果廣島、吳間縣管電車事業の前提ともなりはせぬかと頗る重要視されて居る。

### ◎廣島市内二橋の架換

廣島市土木課では明年度の新規事業として、二橋梁の架換を行ふ計畫で、何れの橋梁を架換すべきかは目下考慮中であるが、既に腐朽甚しき住吉橋、鶴見橋、相生橋の中二橋が架換へさるべきは明かにして、新橋は經費五萬圓を投じて永久的の鐵筋混凝土で建設されると。

## 九州方面

### ◎縣勢展覽會の開催と道路熱——鹿兒島縣

大正十二年八月起工以來二十有六ヶ月の日子と、百十餘萬圓の巨資を投したる縣廳舎落成の機を卜し、十月二十七日より三日間此の新廳舎に於て、縣勢展覽會を開催し、各課の特長、職務等を表現すべき諸統計、參考圖其の他を出品して一般縣民の縦覽に供した。

開會當初より非常の歡迎を受け老若男女を問はず、高等學校、専門學校は素より各種學校の學生、生徒、兒童等陸續として入場するの盛況にて、何れも物珍らしさに驚異するの有様であつたが、殊に道路に關する統計參考圖模型等に付ては、見物人殺到し、熱心に質問するやら、研究するやらで、尙ほ道路熱の振興に偉大なる効果齎らすところがあつた。因に道路に關する重なる出品は左の如きものである。

- 一 道路に於ける坂路と運搬との關係圖
- 一 同止路面と積載量の關係圖

- 一 各府縣自動車現在數調査表
- 一 各府縣町村道一平方里當延長調査表

一 管内各郡道路改修延長調査表

一 管内道路網圖

一 管内自動車交通路線圖

一 道路橋梁の寫眞

一 都市計畫に關する圖表諸統計各國圖

一 左側交通模範圖

一 道路上の作業戒告圖

一 旅行の今昔圖(上圖は昔の駕籠旅行、下圖は自動車旅行圖)其他無量數百點

### ◎大平橋應急修理

永い間の縣案であつた福岡縣築上郡唐原村より耶馬溪に通ずる大平橋の應急修理は這般築上郡長が大分縣へ出向き折衝の結果同縣にても理解したので、來年度豫算に之が費用提案をなす事に決定し、差當り地元村寄附金の一部を割き應急修理を爲すことに決定したる由。